

## 全州標準テストと地域標準テストについて

### Georgia州の生徒にはどの標準テストが必要ですか?

Georgia州では、小学校、中学校、高校の生徒は標準地域テストに参加する必要があります。合衆国初等中等教育法 (Elementary and Secondary Education Act (ESEA)) に準拠するために、1年生から8年生は目標標準学力試験 (Criterion-Referenced Competency Test (CRCT)) を受験します。(1年生と2年生は、財政上の制約のために2012~2013年は評価されないことに注意してください。) CRCTは、同じ学年レベルの生徒全員に実施され、その学年に対して州が要求する内容に基づいています。

11の高校コースについては、生徒は、コース終了テスト (End of Course Tests (EOCT)) を受験します。これらは、数学 I、II、Georgia州学力基準 (Georgia Performance Standards (GPS)) 代数学、GPS 幾何学、または Georgia州共通学力基準 (Common Core Georgia Performance Standards (CCGPS)) 座標代数、社会科、米国歴史、経済学/ビジネス/自由企業、理科、生物、物理学、国語、9年生文学および作文、および米文学および作文などの科目に要求される内容に基づきます。

### Georgia州は、ESEAが要求するテスト以外のテストを要求しますか?

ほとんどの州では、ESEAの要件を超える追加テストの受験を生徒に要求しています。Georgia州では生徒に以下のテストも実施されます。

- Georgia州幼稚園スキル開発テスト (Georgia Kindergarten Inventory of Developing Skills (GKIDS))
- Georgia州ライティング評価 (Georgia Writing Assessment) (3、5、8年生)
- Georgia州高校ライティングテスト (Georgia High School Writing Test (GHSWT))

生徒には、個人のニーズに応じて次のテストも実施されます。

- PSAT:10年生、オプションで11年生
- 上級レベル分けテスト:州が一部補助
- 英語実力テスト (ACCESS for ELLs) または Alternate ACCESS for ELLs:英語能力を評価するために使用されます。生徒の長所を診断したり、他言語話者のための英語 (English for Speakers of Other Languages (ESOL)) サービスのレベル分けや卒業を決めるためにも使用されます。

重度の認識障害を持つ生徒は、ESEAが要求するテストの代わりに代替テストを受験する場合があります。Georgia州では、これに Georgia州代替評価 (Georgia Alternative Assessment (GAA)) が含まれる場合があります。GAAは、生徒の個別教育計画 (Individual Education Program (IEP)) に記載されています。

一部の学区では、州全体のテストの他にさらにテストが必要な場合もあります。たとえば、科目内容やライティングの領域で追加テストを要求する学区もあります。

### CRCTや他の標準テストのスコアは何を意味しますか?

Georgia州では、CRCTテストの得点で4、6、7年生が進級できるか留年になるかを判断しません。3、5、8年生は、生徒のCRCTテストの得点が進級に関係します。標準テストで得点が低い生徒は、補習や再テストを受けることができます。

### 高校を卒業するためには何が必要ですか?

2011年4月に二次評価移行計画 (Secondary Assessment Transition Plan) が州教育委員会によって承認されました。この計画には、Georgia州高校卒業テスト (GHSCT) の段階的廃止、およびコース終了テスト (EOCT) が生徒のコース成績全体に占める割合の増加が含まれています。この計画での具体的な変更は次のとおりです。

### 2011年7月1日以降にはじめて9年生になった生徒の場合:

- Georgia州高校卒業テスト (GHSCT) は、高校卒業証書を取得するために必要でなくなります。これらの生徒は、GHSCTを受験せず、それに合格する必要はありません。



- これらの生徒は、各コースに合格する必要があります。各コースのコース終了テスト (EOCT) は、コースの成績の 20% を占めます。
- これらの生徒は、依然として Georgia 州高校ライティングテスト (GHSWT) で合格点を取る必要があります。

## 2008年7月1日と2011年6月30日の間にはじめて9年生になった生徒の場合:

- 高校卒業証書を得るためには、生徒が各内容領域 (国語、数学、科学、社会) で2つの EOCT の1つに合格すれば、または生徒が GHSWT の同じ内容領域で合格すれば、テスト要件を満たすことができます。
- これらの生徒の場合、EOCT はコース成績の 15% を占めます。
- 生徒が、内容領域で EOCT に合格できない場合、代わりに GHSWT を受験できます。
- これらの生徒は、依然として GHSWT で合格点を取る必要があります。

## 子どもは IEP の対象です。それでもこれらのテストを受ける必要がありますか?

はい、初等。中等教育法 (ESEA) では、「障害を持つ生徒を全員、必要な場合および各生徒の個別教育計画 (IEP) に従って適切な配慮を行った上で、すべての一般的な州および学区の評価に含める。」と規定されています。毎年テストは、お子様の教育プログラムやレベル分けの決定に役立つ貴重な情報を IEP チームに提供します。これらのテストで長所や弱点を確認でき、生徒全員が州の標準をクリアできる授業を教員が開発するのに役立ちます。

## 子どもは IEP の対象です。CRCT で不合格になったら、どうなりますか?

州法および州教育委員会規則の両方が、CRCT で州の標準に達しない場合には、3、5、8 年で各生徒を再テストすることを要求しています。CRCT での不合格が、お子様の留年や進級を決めることはありません。

## 必要な卒業テストすべてに合格しなくても、子どもは卒業できますか?

必要なテストの一部に合格できなくても、他のすべての卒業資格を満たせば、生徒は高校修了証書または特殊教育卒業証書を得る資格があります。IEP の対象である生徒は、22 歳まで、または通常の高校卒業証書を取得するまで、学区から教育サービスを受け続ける資格があります。生徒または成人は、高校卒業証書の資格を得るために必要なだけ高校卒業テストを再受験できます。再テストを受験したい生徒は、テスト実施日に余裕を持って地域の高校に問い合わせる必要があります。

## 標準テストではどのような配慮が認められますか?

Georgia 州では、配慮を受けることができる生徒は 3 つのグループに分かれます。

1. IEP の対象である生徒
2. セクション 504 プランの対象である生徒
3. テスト参加計画 (Test Participation Plan (TPP)) の対象である英語学習者

認められる配慮は次のとおりです。

1. 生徒のニーズに基づく
2. IEP または 504 プランで正当化され文書化されている
3. 日常の指導と整合している
4. 生徒の自立を促進する
5. Georgia 州生徒評価ハンドブック (Georgia Student Assessment Handbook) で承認され記載されている

詳細な情報については以下にご連絡ください。

ペアレントツー ペアレント オブ Georgia (Parent to Parent of Georgia)

770 451-5484 または 800-229-2038

[www.p2pga.org](http://www.p2pga.org)

Georgia 州教育省特殊教育サービス支援局 (Georgia Department of Education,  
Divisions for Special Education Services and Supports)

404 656-3963 または 800-311-3627 に電話し、「特殊教育 (Special Education)」に電話を回すよう伝えてください。

[http://www.gadoe.org/ci\\_exceptional.aspx](http://www.gadoe.org/ci_exceptional.aspx)

その他の情報源: 学区の **特殊教育ディレクター (Special Education Director)** にご相談ください。